

令和6年度 第5回白山市ミライ会議 【概要】

日 時 令和6年6月29日(土)10:00～11:00

場 所 鶴来総合文化会館クレイン 2階研修室2・3

テーマ 【防災】 地域防災

出席者 10人〔鶴来5地区の地域コミュニティ組織の防災担当ほか〕



◆同じ地域でも地区によって異なる災害リスク 新たなハザードマップの作成を

(出席者①)

鶴来地域の中でも、地区によって異なる災害リスクがあり、各地区で防災に対する考え方も違ってくると思います。林地区で言えば、二級河川高橋川の改修工事を(県に)頑張っていたきたい。その他、市で土砂関連のマップやハザードマップが作成されているものの、作成から時間が経過しています。これらのマップは一級河川、二級河川の氾濫時の浸水想定を示していますが、内水面(平地に降った水がどのように流れ浸水するか)についても加味しないと、実際の浸水状況は分かりません。この地域は七ヶ用水があるため、現在、内水面の排水は七ヶ用水に頼っている状況です。

近年、高橋川や七ヶ用水の水門閉鎖については、大雨警報が出たら迅速に対応していただいています。また、内水面に水が入らないよう、鶴来支所職員が河川からの取水を事前に止めていることもあり、鶴来地域の浸水はすごく減っていると思います。しかし、大量の雨が降るとそういうわけにはいきません。以前に全戸配布されたハザードマップを見ても、自分がどこにいるか分かりません。次にマップをつくる際には、町名や公共施設名を入れてほしい。避難方向を示す矢印も、実際の危険箇所を避ける形での表示が望ましい。内水面の調査は、県と市で令和5年度から始めると聞いていましたが、その進捗についてどうなっているのでしょうか。今後、新たなハザードマップを作成し、住民に配布してほしい。

(市長)

内水浸水想定区域のハザードマップは、今年度末に配布予定です。

今回の能登半島地震では帰省中の人や旅行者、外国人がどう逃げていいかわからない、どこに行っていいかわからない状況が見られました。例えば、地図を見たときも今どこにいるのか、最短距離を通ると危ない地域を通る可能性もあるため、適切な情報提供が非常に重要であると思います。

(発言者①)

区域に線を入れて、地区も分かるようなハザードマップにしてほしい。

(市長)

地区によって災害の状況も違います。森本富樫断層で地震が発生した場合には、山が崩れる可能性が高く、クレインの広場などの広いスペースへの避難が必要です。実際に、先日の地震の際には、海沿いの住民が相当数クレインに避難してきたとも聞いていますので、今後の災害に備えて様々な想定をしておく必要があります。

(発言者②)

諸説あると思いますが、富樫断層が現在、鶴来方面のどこまで来ているか判明していますか。

(危機管理課長)

図面を見るかぎり、津幡から金沢にむかって南北に走っていて、鶴来地域の林地区くらいまでできています。

(発言者①)

林地区の山沿いだと思ってもらえれば。実際は鶴来高校あたりまで公表されています。県で富樫断層の調査を行っていて、来年度の県地域防災計画には反映されると聞いています。被害想定は30年ぐらい変わっていません。

(市長)

富樫断層が動いて、避難しようとした際にどのような状況になるか考える必要があります。白山市は、南北に渡って国道や高速道路が整備されている一方で、東西方向の道路は非常に脆弱で細く、これを何とか改善していかななくてはいけないと思っています。

◆元旦の震災で高まる防災意識 避難所の鍵に関する課題への対応を

(出席者②)

一ノ宮地区は大きな岩盤の上にあるため、地震があってもこの地区は大丈夫という住民の感覚だったけれど、元旦の地震を受け、その意識が変わってきています。2年前の水害では、一ノ宮地区を含めて白山ろくのほとんどの谷川が被害を受け、重機で土砂を退けないかぎり通行できない状況だったと思います。そういうことも含めて、我々の防災意識もかなり高まっています。

現在、白山市の防災計画では、鍵の保管は市役所の担当課とコミュニティセンターの2カ所で、避難所開設等の緊急時には市の職員が駆けつけることになっています。しかし、元旦の地震の際には、市の職員より先にコミュニティセンターの職員が現地に到着した状況でした。今後、大規模な震災が発生した際、市の職員が駆けつけることが困難な場合や、コミュニティセンターの職員も現場到着までに時間がかかる可能性が考えられます。そのため、鍵の保管場所をもう

1～2カ所増やすことを検討いただけないでしょうか。

(市長)

今回の震災では、海側の人たちが学校に避難しようとした際、鍵が開いておらず、やむを得ずガラスを割って入ったところもありました。市の職員が対応することになっていても、実際の状況では想定どおりの対応が難しい場合もあります。震災時には現場に近い方々が重要になると思います。現在、富山県では違う方法を導入しているようですが。

(危機管理課長)

富山県黒部市では、津波避難所になっている灯台の扉に、鍵ボックスがついていて、緊急地震速報を受信したら自動で開く仕組みが導入されています。

白山市の場合は、地域によって事情が異なります。松任地域では、鍵を危機管理課で管理していて、元旦の震災の際には地区支部職員が市役所に来て、鍵を持っていった経緯があります。そのあたりは、コミュニティセンター長と相談しながら、まずはセンターに鍵を置いていただけないか協議したいと思います。

(出席者②)

コミュニティセンターに鍵を置いても、いざという時にセンターが開かなければ鍵は使えません。そのあたりは現場と協議しながら、どこに保管するのがよいか柔軟に対応いただきたい。

(危機管理課長)

すでに案内が届いていると思いますが、訓練として、地区支部職員が避難所に伺って、コミュニティセンターの職員と顔合わせを兼ね、防災倉庫の確認等を行いますので、その際に鍵の保管場所についてもお話を伺えたらと思います。

◆自警団は有事にこそもっと活用されるべき 消防団と連携し、日頃から有事の訓練を

(出席者③)

自警団組織は各町内会にあります。年1回の合同訓練大会のための組織かと思うほどだが、本来は有事にこそもっと活用されるべきです。一ノ宮、鶴来、蔵山、林、舘畑の消防分団と自警団が連携し、日頃から有事の訓練を行うべきですが、全くできていないのが現状であると思うので、市をあげてバックアップしていただきたい。停電や水害、地震などの際には、自ら動ける体制を整えるべきであり、せっかくある町内の自警団にスポットをあててほしい。

(市長)

自警団は地域によって様相が異なります。鶴来地域では自警団組織がしっかりしていて、訓練大会も開催されている一方で、他では自警団が存在しない地域もあります。私の住む地域で地域防災訓練をしたときには、自警団が放水訓練と避難訓練を同時に行うなど、地区で訓練方法の工夫をしているので、そうした取り組みを広げていければ。今のご提言は大変大切なことだと思いますが、日頃、消防分団と自警団は連携していますか。

(出席者④)

鶴来分団では、春と秋に火災予防訓練を行っていて、訓練の場所によっては自警団と一緒に訓練をするケースもあります。学校や地区ごとにやっているの、なるべく全体的にうまく回るように、行政と一緒にやっていけたら望ましいと思います。

(出席者⑤)

館畑分団では、月2回定例で巡回しており、そのうち1回は各町会の自警団と一緒に放水訓練を持ち回りで行っています。そういったことも参考にしていいただければと思います。

(出席者③)

少々認識不足かもしれないので、蔵山分団と相談してみます。

(市長)

市内には、自警団がある地域ばかりではないので、コミュニティセンターを交流の場として広げていくとよいのではないのでしょうか。

能登半島地震の際、輪島の朝市では、分団の消防ポンプ車が使用できず、水利も確保できませんでした。分団の訓練で行っていますが、遠くから水利を運ぶ方法や手持ちのポンプを使用することも有効な場合もあります。現在、こうした消火方法はあまり一般的ではないものの、消防ポンプ自動車を使用できない状況では、そのような手法も必要だと思います。

◆火災現場で地域を良く知る自警団が消防水利のバックアップ 分団と連携

(出席者⑥)

火事現場ではどこから水を引けばいいかわからないことがあります。地域のことを一番分かっている自警団が、消火栓や川などの水源へ誘導してくれ、非常に助かっています。自警団もハーフタイプポンプ車を持っているが、実際に現場で水を出す機会はありません。分団のポンプ車は、消防団としても有難いと思います。

(市長)

水がどこにあるかを知ることは重要です。美川中学校前で大規模な火災が発生した際、水利が足りず、中学校のプールの水を利用しました。今回、輪島でも水が不足し、火災が発生しているが、消火ができない状況でした。そういった意味でも、自警団が水利の場所が分かるので、消火活動において非常に助けになります。

◆自警団と自主防災組織 地域ぐるみでの防災を考えたい

(出席者⑦)

自警団の活動についての話がでましたが、多数の町内会で自警団を持っていて、さらに各町で自主防災組織も作って活動しています。その中に消防班もあるので、自警団と連携して活動することが必要かと思っています。また、町内会の自警団組織、自主防災組織だけでは人数が集

まらないので、各地域全体で考える組織づくりが必要かと思います。そういった地域ぐるみの防災について、何か参考になる事例があれば教えてほしい。集落単位ではなく、地区単位での自主防災活動の手助けになることを計画していれば教えていただきたい。館畑地区全体でできないか、考えています。

(市長)

現在、自主防災組織があるのは、出城、一木、湊、御手洗、千代野、加賀野、林中、郷、山島、石川、中奥の11地区です。皆さんの地域の自主防災組織はどうでしょうか。

(出席者②)

一ノ宮地区には、自主防災組織はありません。

(出席者④)

鶴来地区も、ありません。

(市長)

自主防災組織ができあがって、避難訓練も段々増えてきています。

(出席者②)

今はありませんが、地域コミュニティ組織が代行すべきだろうと思います。

(広報広聴課長)

林地区は、昨年防災訓練をされていたようですが。

(出席者①)

昨年、防災訓練を久しぶりに実施し、今年も何とか続けたいと思っています。

本来なら自主防災組織ができて、それぞれが主体となって活動するのが一番いいと思いますが、自警団が発達していた関係上、町内会の自主防災組織の位置付けが弱く、自警団に頼っていたというのが大きい。まずは、地区でこういうものを作るから、町内会でも作ってほしいということで集まれば、防災訓練もそういう体制で行うことになるのではないかと思います。松任地域は、コミュニティセンターと協議会で防災訓練を行っていると聞いています。今後、そういう方向に持っていかなくてはいけないと思います。

◆人口減少で町会の自治活動が困難 今ある地域コミュニティ組織を中心とした体制に

(出席者②)

各地区に合う形で運営すればいいのではないかと思います。一ノ宮地区や山ろく地域は、皆さんの地区と違って、人口がどんどん減ってきています。新たな組織を作ろうとすると、結局、同じ人が担うことになる。いろいろな組織を作るよりも、今ある地域コミュニティ組織を中心に、協議する部会を作って、各町会に下ろすような形にし、町会の組織は自治に専念するよう

な体制に順次変えていこうと思っています。防災や美化、福祉など、これまで町会の自治で賄ってきましたが、人が減ってくるとそれが難しくなっているため、新しくできた地域コミュニティ組織を中心に動かしていこうと思っています。白山市全体としては人口が減っておらず、皆さん方の地区では増えているところもあるかもしれませんが、一ノ宮や山ろく地域は深刻な状況にあり、限界集落に近付いている危機感を持っています。

(市長)

自主防災組織は各地区の実情に応じて、住民の皆さんで自助や共助の方法を考えていただきたいと思います。どこも皆同じというわけにはいきませんが、災害を想定し、公助はもちろん、自助、共助の訓練も実施されるようになってきています。

◆分団、自警団、防災士会が連携し、地域の防災体制を強固に

(出席者③)

蔵山地区には「安心安全部会」というものがあり、部会長を分団長が務めています。防災に関しては分団が中心となり、今年も防災訓練を予定しています。各地区で自主防災会の設立が進んでいる中、蔵山地区では本格的には行われていませんが、今後進めていこうと思います。分団、自警団、防災士会が三位一体となれば、地域の防災体制が強固なものになると考えます。

(出席者⑧)

防災力の向上に向けて、ハード面ではコミュニティセンターなどの体制が整えられています。これまで大きな災害が少ない地域ではあります。自分は防災に対する意識を高めるために勉強し、防災士の資格を取得しました。各地区には分団や自警団、いろいろなコミュニティがありますが、白山市全体の防災意識を高めていけるかが課題であり、そのための具体的な対策などを教えてもらいたい。

(市長)

今回、公民館のコミュニティセンター化に伴い、地域コミュニティ組織には防災をメインテーマとして取り組んでほしいと、前市長から引き継ぎました。各地区は独自の工夫で防災活動に取り組んでいる様子が見受けられます。特に防災訓練や研修は増加しており、地域の防災意識も高まっていると感じられます。鶴来地域では、分団や自警団がしっかりしていますので、地域の特性に応じて防災に取り組んでいただきたいと思います。

確かにこれまで大規模な災害は発生していないものの、一昨年の豪雨で朝日校下が氾濫した際には、事前の備えが功を奏し、迅速に土嚢が運ばれるなど対応していただきました。そうした意味で、鶴来地域は防災意識が高く、分団と自警団の連携もしっかりしています。さきの提案にあったように、今後、連携をさらに強化できるよう考えていくといいのではないのでしょうか。

◆自主防災活動は市内先進事例を参考に 人口減少地区の取り組みは今後のモデルに

(出席者⑨)

先ほども防災士との連携について話があったかと思いますが、市は防災力の向上を目的とした防災士の育成やアドバイザー派遣事業を進めているとのこと。白山市には 11 の自主防災組織があるということですが、実際には松任や美川に多く、鶴来地域の住民にはその活動が見えにくいのが現状です。

私は防災士でもあるので、いろいろなところに関わっていますが、白山市での自主防災活動が最も進んでいるのは、松任地域の出城地区だと思います。各町内が防災活動に取り組む際、人的資源や予算の面で苦勞することが多い中、地区でまとまることによって大きな成果を上げています。人口に関わらず、地区として行うのは1つの方法ですので、白山市の先進事例を参考にしながら組織化していけばいいのではないのでしょうか。

また、一ノ宮地区のように人口減少に直面している地域では、一ノ宮モデルを構築することで、山ろく地域のモデル事業になるのではないかと思います。

(市長)

私自身が出城地区町内会長会の会長をしていたこともあり、いろいろと関わっています。分団、町会には自警団があり、町会組織の中で係を全部決めています。実際に震災が起きたとき、例えば一人暮らしの家に誰が回ってどう集約するかなど、誰がどの担当か、日頃から訓練しています。そのときは福祉に携わる方々も必要になります。皆同じように動くことは難しいと思いますので、地域の特性を考えて参考にさせていただきたいと思います。